

十勝毎日新聞

2013年(平成25年) 11月9日 土曜日

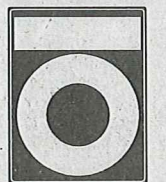
発行所:十勝毎日新聞社
〒080-8688
帯広市東1条南8丁目
電話(代表)0155-22-2121

最高気温 12℃
最低気温 1℃
あすの帯広



常に信頼される品質と価格をモットーに!

いちまる厳選商品



安全と素材・味にこだわった
自慢の一品です。
www.ichimaru.gr.jp

きょうの紙面

薬物依存体験オペラに 25

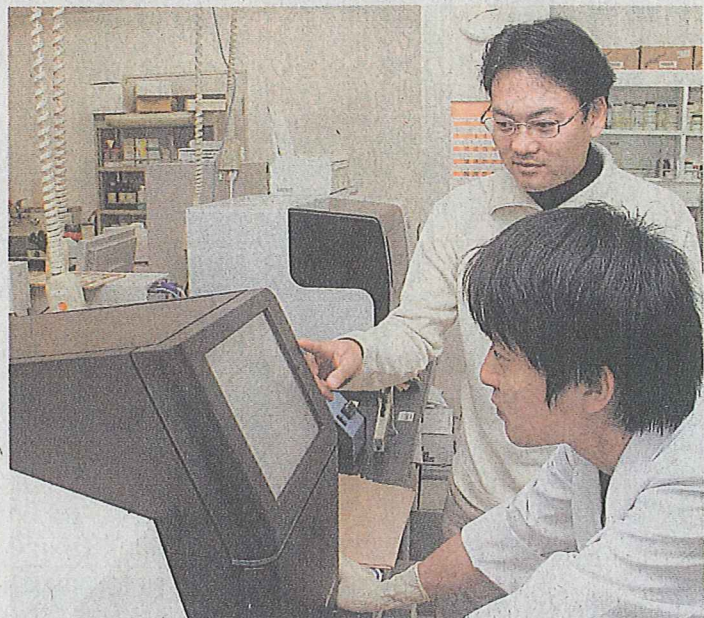


薬物依存体験を語り
りと音楽で表現する

北斗病院が来年度

つなげる。同装置をがん治療で臨床応用する例は世界的にも数少ないという。将来的には細胞レベルでの診断技術を組み合わせ、より高度な「テーラーメイド医療(個別化医療)」の確立を目指す。

がん遺伝子診断開始へ



次世代シーケンサーで研究員と共に解析結果を確認する西原部長(奥)

同病院は今年4月に同装置を導入。病理診断科の西原広別・細分化される一方、診断史官員部長(北大大学院医学はその流れから遅れている。研究科探索病理学講座特任准西原部長は「がんの性格は人教授)を中心に準備を進めてきた。同装置は多量の遺伝子を一度に解析できる一方、得られるデータが膨大になるため、個人の診断に用いるのは、個性に合わせた治療を提案する範囲を絞り込むなどして診断に使うめどがいった。がんの治療法は新薬の登場などで目覚ましい進歩を遂げ

世界でもまれ 最新装置臨床に より効果的な治療提案

薬が効く可能性がある場合もあるが、それが乳がん用に認可されていない薬であれば自己負担となる。民間保険で特約の対象となる先進医療としても認められていない。西原部長は「先進医療として申請することも検討したい。将来的には「がん遺伝子外来」の開設につなげたい」と遺伝子診断・治療の普及を目指す。西原部長らの研究チームでは、がん遺伝子診断と合わせて、少量の検体からがん細胞を分離する技術の開発も進めている。これにより、診断から個別化治療の提案まで一度でできる他、微少ながんやがんの前段階の病変の発見も期待できるという。研究は今年度の鈴木謙三記念医学応用研究財団の助成金交付対象に決まった。全国で26件の助成対象のほとんどが大学や大病院が手掛ける研究で、民間病院が主体となる研究は西原部長らのチームだけ。なお、ハリウッド女優のアシエリーナ・ジョリーが乳房切除の根拠とした遺伝子検査は、正常細胞を調べて遺伝的にがんになる確率を探るためのもので、患者のがん細胞を調べる同病院の検査とは根本的に異なる。(丹羽恭太)

北洋帯広ビル跡

「年内着工」に遅れ

博愛会 入居選定が難航か

医療法人社団博愛会(帯広市、細川吉博理事長)が市中心部の北洋帯広ビル跡(西2南9)で建設を予定する医療・福祉関連の複合ビルについて、早ければ年内としていた着工時期が

は明らかにできない」としているが、関係者によると、入居事業者の選定が難航するなど設計内容に変更が生じたためとみられる。博愛会は「具体的な工程は今月下旬に固まる見通し」としている。

十勝百年農場 方川さん(本別)表

「第20回十勝百年農場」表彰農場は、同一家系に



次々 幕別

田稔章組合長)イモ品種「和稔じょ」の収穫が

和稔じょ

製品ベースで昨